

平成29年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(平成30年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付随する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の1

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>浦西 勉 （龍谷大学教授 元奈良県教育委員会） 新井 寿彦 （川上村教育委員会次長） 芝 栄司 （和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 霜上 民生 （一般社団法人近畿建設協会理事長） 白井 光典 （和歌山市水道局長） 津本 多正 （川上村議会総務文教委員長） 西川 浩至 （奈良県水道局長） 春増 薫 （川上村議会議長） 宮岸 幸正 （大阪工業大学副学長） 村田 崇 （奈良県地域振興部長） 森脇 深 （川上村地域振興課長） 山口 孝次 （橋本市上下水道部長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 阪口 和久 代表理事・副理事長（川上村副村長） 今福 和男 業務執行理事（川上村水源地課長） 辻谷 達雄 （元 森と水の源流館館長） 西久保 智美（コミュニティーライター） 橋本 裕行（奈良県立橿原考古学研究所企画部企画課長） 宮口 侗迪（早稲田大学教授） 村上 健（奈良県地域振興部地域政策課長） 横田 岳人（龍谷大学准教授 教養教育センター副センター長）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月 9日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 定時評議員会 6月24日（評議員選任の件、理事の選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認） 臨時理事会 6月30日（代表理事、業務執行理事の選定） 臨時理事会 9月19日（利益相反取引に関する承認） 定例理事会 3月22日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p>

II. 事業の状況

公益事業 I	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する事業。				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー（一般公募型）	4・7・11月	3回	53名	水源地の森での体験学習の実施
団体（企業含む）研修等での利用	通年	64件	2,278名	水源地の森散策や森づくり体験等
環境教育支援（学校対応）	通年	83件	4,106名	小学校から大学までの見学案内及び出張源流教室
森と水の源流館授業づくりセミナー	7～1月	5回	65名	近畿 ESD コンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくり
源流学の森づくり （源流人会等の活動）	5・11月	2回	15名	一旦伐採された二次林での森林整理作業、「源流学」実技体験
白屋草刈りボランティア	6・10月	2回	38名	旧白屋地区で、草刈り・外来種駆除を行い、水源地域の環境保全にかかわる人材の育成

公益事業 II	流域交流・啓発にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
夏休み（館内）プログラム	7～8月	4種	114名	昆虫図鑑づくり、学習シートほか
源流のつどい	7・8・1月	3回	52名	水瀑ツアー、NPO法人山野草の会と交流、源流の日コンサートなど
源流のつどい 「開館 15 周年記念日」	4月29日	1回	300名	新規映像プログラム披露やスライドコンサート、事業をふりかえるトークショーなど
川上村環境基本計画推進業務	通年	7回	130名	住民参加型環境クラブ活動と役場公共施設職員研修の企画・実施、村民流域学習会の運営など
森守募金キャンペーン on おはなしカーニバル	5月28日	1回	200名	多様な団体とともに実行委員会形式で運営に参加し募金を呼びかけ
流域等各地へのPRキャラバン	通年	12回	700名	源流ワリスムトークショー（枚方市）神戸市水の科学博物館、風土記まつり、おもしろ環境まつり（和歌山市）など
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	財団の動きや、各事業報告、調査レポートなど

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	5・8・9月	4回	180名	参加体験型でのコケ・水生生物・昆虫・シダの観察
水源地の森自然環境調査	10月	2回	4名	希少植物の調査
巨樹・古木調査	8～3月	20回	70名	川上村内の巨樹・古木の現状調査
専門家による調査・研究	6・7・9・10月	7回	34名	植物（下層植生・トカサリ）・菌類など研究者の調査支援

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	—	利用者 11,282名	日常の維持・管理、運営。定期点検、清掃、補修 開館15周年記念行事に合わせ『ぼたり』表紙展・川上村の美しい情景展、企画展「川上村のぼった Batta to バッタ展」
「吉野川源流－水源地の森」管理	通年	46回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修（入山者577名）
「水源地の森交流施設」管理	通年	12回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品（副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど）。地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品（書籍・地図など）。環境に配慮した製品（洗剤など）。村内で生産された商品（ペットボトル入湧水・雑貨品など）。自然観察用品（野帳・ルーペなど）。このほか夏休み・企画展・行事などに合わせ、関連する書籍や商品を適宜販売。	

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託実施する。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	8～3月	3haの二次林管理作業
和歌山市民の森源流体験学習業務委託	和歌山市	10月	水源地の森学習会として実施 2回予定が台風の影響で1回中止
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	4月～12月	農作業や源流散策など平野部の相互交流事業実施支援、報告書作成
吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務	川上村	12～3月	上流・中流・下流のめぐみと人をテーマにつながり視覚化・PR展開
吉野川分水の多面的機能PR資料作成委託業務	奈良県 農村振興課	1～3月	多面的な受益を紹介する学校教材の活用をめざしたポスターを制作

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアー形式などによる研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

4月・7月・11月開催、53名が参加。



【企業や行政など団体による研修等の利用】



南都銀行新入社員研修 (4/20)



吉野郡教員新人研修 (8/1)



関西電力労働組合森づくり (11/10・11)



流域協議会水源地の森ツアー (3/25)

関西電力労働組合の森づくり体験では、除伐・防鹿柵の設置のほか、初めての試みとして地域への協力（伯母谷地区の清掃活動への協力）を実施。

【環境教育支援（学校対応）】

森林環境学習の受入れや「出張源流教室」を実施。森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟から和歌山市教育委員会への呼びかけでも実施。



畝傍高校スーパー・グローバル・ハイスクールで利用（5/9）



出張源流教室（11/13ほか 16件実施）

【森と水の源流館授業づくりセミナー（近畿ESDコンソーシアム）】

現役小学校教諭を対象に実際に2学期から行う授業の単元計画作成に対し、奈良教育大学次世代教員養成センターが指導にあたるセミナー。森と水の源流館等を会場に5回連続で開催。森と水の源流館スタッフは学習素材や流域に関する情報を提供。回によって学生や財団理事も参加。



【源流人会の活動など】

水源地域の環境保全にかかわる人材育成山村に残る知識や知恵、技を「源流学」として共有することを目指して実施。



「源流学の森づくり」（5/3・11/25）



「白屋草刈りボランティア」（6/3・10/1）

公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

源流地域の魅力を介して、都市部の人々との交流をはかる催しの開催や、各地に出かけてのPR・普及啓発に取り組んだ。

【源流のつどい】

川上村が推進する「源流ツーリズム」に向けた資源発掘、地域活力の醸成支援および東熊野街道・御船の滝でのエコツアーを実施したほか、NPO 法人山野草の会（桜井市）との交流を深化。



東熊野街道ウォーク（7/15）



御船の滝氷瀑ツアー（1/27）



NPO 法人山野草の里交流会（8/16 桜井市内にて実施。9/16の川上村訪問は中止）



【夏休み（館内）プログラム】

夏休み期間中「宿題応援！」を掲げ、館内見学用の「学習シート」の配布ほか、講師を招いて「昆虫図鑑づくり」・「切って貼って花づくり」などの体験プログラムを提供。



「昆虫図鑑づくり」（8/15・16）



「切って貼って花づくり」（8/20）

【流域ほか各地での情報発信・PR、啓発活動】

流域市町村で開催される行事への出展のほか、川上村が推進する「源流ツーリズム」事業への協力として、枚方市T-SITE (TSUTAYA) での「ネイチャーフォトグラファー内山りゅうさんとクロストーク」のコーディネーター役。またESDに関連する報告・発表の機会が増加。



「和歌山おもしろ環境まつり」出展 (12/2)



内山りゅう氏とのクロストーク (5/20)



全国社会科学研究大会での発表協力 (10/27)



全国ESDフォーラム(東京)での報告 (11/24)

【川上村環境基本計画推進業務】

役場・公共施設職員の研修会や村民を対象とした流域学習会、また和歌山市生活排水対策指導員交流の支援などを実施した。職員研修では「水のつながりプロジェクト」に関して、役場等で全体で周知がされるよう、また協力農家にも川上村の取組みが理解されるよう交流会として企画。「環境クラブ活動」では、こめ油を使った料理講習会を開催。



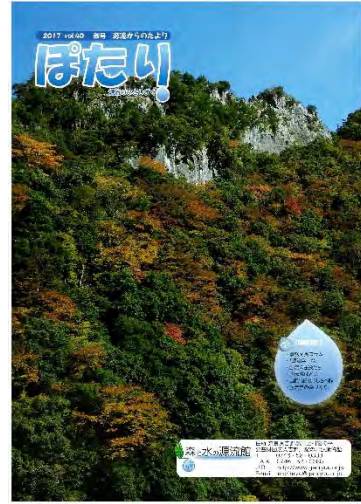
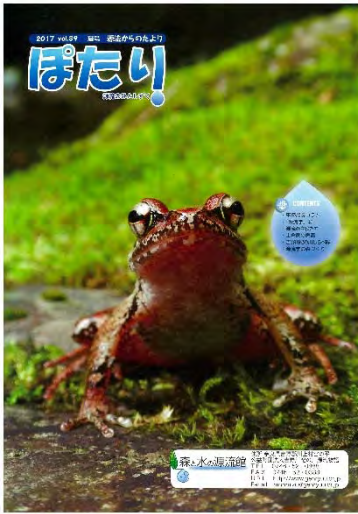
流域学習会 加太桜鯛まつり (和歌山市) (3/10)



大和平野農家を招いた意見交換会 (2/27)

【機関誌『ぼたりに』 No. 39・40・41号発刊】

活動報告や調査結果などを記載し、夏・冬・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布。



【「開館 15 周年記念日」】

森と水の源流館の開館 15 歳の誕生日にあたる 4 月 29 日に開催。源流の森シアターの多面的な活用の可能性のデモンストレーションの意味で、コンサートやトークショー、発表やワークショップなどの要素を盛り合わせた内容とした。紀の川じるしの表現として流域で生産されている食材を使用した「紀の川じるしの御弁当」も提供。



宮口理事（早稲田大学名誉教授）挨拶



ピアノコンサート&フォトスライドショー



流域連携をふりかえるトークショー



源流人会メンバーが車座で意見交換

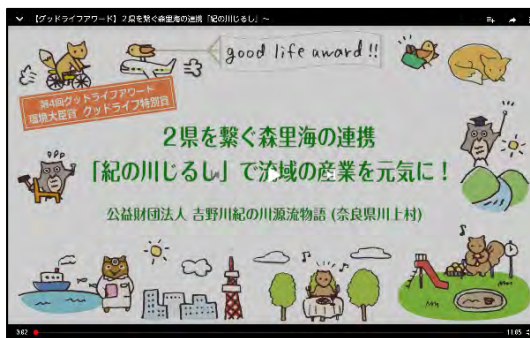
【源流の日コンサート】

全国豊かな海づくり大会のあった11月16日は川上村源流の日と制定されており、森と水の源流館では松谷文美氏（音楽コーチ、作曲・歌手）のコンサートを開催。オリジナル曲や「源流は水の源、水は命の源」ということで、生命を考える曲で源流の森シアターいっぱい集った聴衆を魅了。



【環境省 グッドライフアワードのPR】

紀の川じるしの取り組みなどで、昨年度に環境省グッドライフアワードにおいて「グッドライフ特別賞」を受賞したことを、環境省のWEBサイトから、あらためて取材を受けて作成されたコンテンツが発信。



公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

調査事業では、源流地域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。

【吉野川紀の川しらべ隊】

川上村内のほか、吉野町など流域市町村をフィールドに観察会を実施。



「吉野山のコケを調べよう」(5/7 吉野町)



「水生生物をしらべよう」(8/5 川上村)



「身近な虫をしらべよう」(8/12 川上村)



「喜佐谷のシダをしらべよう」(9/30 吉野町)

【専門家や研究者による調査・視察】



「水源地の森」下層植生調査(6・10月)



川上村内の巨樹古木調査(通年)



旧白屋地区の環境調査・定点観察(通年)の結果は川上村が取組む「未来への風景づくり」と連携し、旧白屋地区での環境学習を考察するための基礎資料とし、調査成果は「かわら版」で発信。

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

館の維持管理、案内や企画展・歳時展示を実施。



企画展「川上村のぼった Batta to バッタ展」(7/1～10/29) ミュージアムトーク (8/11)



開館 15 周年記念『ぼたり』表紙展 (4/6～6/27)

川上村の美しい情景展 (4/29)



「川上村で出会った～緑・人・水～」絵画展 (1/4～3/31)
北階段のギャラリーに展示する作品を一般公募し、展示。

【「吉野川源流—水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理】

水源地の森内の散策路や簡易な木橋の復旧、また付帯する休憩施設・管理棟の定期見回り・点検、簡易な補修を実施。



「水源地の森」見回りと散策路の補修

収益事業（受託事業）

【和歌山市民の森源流体験学習業務】（和歌山市）

平成16年度から継続する和歌山市民の森づくり事業。現在は現地までの林道の崩落により水源地の森での学習会を実施。10月に2回を予定していたが、台風の影響のため1回が中止となった。



【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】（川上村）

大和平野土地改良区の農家作業の体験を通じて、源流部と平野部の小学生の交流事業や大人向け源流トレッキングなどの運営を受託。



水土里の会の農家の指導で、田植え体験（6/13）・稲刈り体験（10/24）（橿原市内）



平野部の子ども達の源流体験（9/8）



協力農家インタビューを加えた報告書

【吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務】（川上村）

吉野川流域の産業従事や教育関係機関を中心とするキーパーソンとともに取組む「紀の川
じるし」の活動をさらに具現化し、浸透させ、協力者を広げるた業務。



「紀の川じるしの見本市」（3/16～18）



「紀の川じるしの見本市」にあわせて制作した冊子『水をめぐる物語』

【吉野川分水の多面的機能 PR 資料作成委託業務】（奈良県農村振興課）

「水のつながりプロジェクト」でもかかわりが深まった吉野川分水について、農家以外の人々にも恩恵がある多面的な役割をPRすることを目的としたツール作成業務を受託。ESD でつながりのできた教員のニーズを意識し、学習教材にもなる B2 ポスターとした。



パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

川上の源流館

村の自然トーク

15周年でイベント

川上村宮の平の森と水の源流館は29日、15周年記念日の催しとして、入館料を無料にしたほか、シアターでステージイベントなどを開いた。

内では撮影した自然や祭祀(し)などの写真を投影しながら同村への思いを話したほか、兵庫県在住で同村との交流もあるピアニスト、山川亜紀さんが同村の自然をテーマに作曲した音楽を演奏し、2人

のトークショーも行われた。館内で、同館職員が写真を撮影し発行してきた同館友の会「源流人会」の機関紙の歴史表紙の展示も行われている。展示は7月ごろまで続けるという。



ピアニスト・山川さん(左)と写真家・辻本さんのトークセッション=29日、川上村宮の平の森と水の源流館

草刈り奉仕に汗

無人の白屋地区「見本園」 里山環境を保持

川上 大滝ダム貯水による地滑りに伴い、全家屋が移転・撤去された川上村白屋地区の「未来へ」

大滝ダム貯水の風景づくり「見本園」で、県内外から参加したボランティア9人が草刈り奉仕に汗を流した。写真。



水源地を守ることを大切さを伝えている村の施設「森と水の源流館」が、人の手で維持された環境は無人にな

るとどう変わるかを知ってもらおうと、参加者を募った。

見本園は鹿の侵入を防ぐ柵で囲った約100平方メートル。源流館の木村全邦さんが「放置すると3年でススキ原になる」と話すように、草刈りは里山本来の自然環境を保持する狙いもある。昨年の草刈り後は明るい場所を好む植物が増えたと

いう。

葛城市立新庄北小3年の中山航さん(8)は「スイカズラはいいにおいがした。山遊びは楽しい」と喜んでいました。

【栗栖健】



一列に並んで田植えを行う児童＝13日、橿原市田中町の水源地交流水田

児童ら田植えで交流

水のつながりプロジェクト

生き物観察のミニ授業も

橿原・今井小

川上・川上小

大和平野土地改良区 市と同村の小学生の田 町の水源地交流水田で
と川上村は13日、橿原 植え体験を、同市田中 行った。

吉野川分水の水源地と、水が供給される大和平野の子供たちとの交流を図る「水のつながりプロジェクト」の一環で、今回で6回目。市立今井小学校（吉村勝雅校長）の5年生34人と、村立川上村小学校（熊谷啓子校長）の5年生6人が参加した。水田の広さは約600平方メートル。児童は、地元農家をつくる「田中町水士里の会」の会員から作業の手順の説明を受け、水田に入ると一列に並んで苗を植えていった。両校長も一緒に作業を行った。また田植えの後には、古山環境マクロミリア代表が、生き物観察のミニ授業を行った。

川上小の納田みろくさん（10）は「去年に続いて2回目の田植えで少し慣れた。秋の収穫が楽しみ」と笑顔を見せた。

水家の夏休み2017

〈森と水の源流館〉編

水でつながる つたえる・つづける

～「水源地の村」川上村からの取り組み～

水のつながりプロジェクト
田植え・稲刈り体験

西大寺 奈良

植原神宮前

吉野川

取水口

大滝ダム

川上村

吉野川源流 水源地の森

大滝ダム

森から海をつなぐ 連携・交流

吉野川源流の川 しらべ隊

みんな 来てね

イベントや 体験学習が もりださんです

ここから 吉野川の水が 大和平野を潤して いるんだって!

水家の夏休み2017

〈大和信用金庫〉編

源流体験 ツアー

ゲンゴロウ いた〜!

ここが 大和川の水源地の森

川の清掃デー

大和川定期預金

大和川の水質は 何となく 良くなってるよ〜

大和川 金利 ↑ 0.06%

大和川 水質 ↑

よさしくみ 褒めます!



「近畿ESDコンソーシアム」の一員として 森と水の源流館授業づくりセミナーが 始まっています。

ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進をめざし、奈良教育大学を核として、ユネスコスクールをはじめとする教育機関や教育・学習施設、また企業などが参加するプラットフォームに属しています。本年度、ESD 廣習として森と水の源流館との連携事業「授業づくりセミナー」が開催され、奈良県内の小学校の先生と和歌山県内の小学校の先生が、同じ「源流」に集まり、吉野川分水や水の恵みなどをテーマとした授業づくりを行っています。くわしくは、「近畿ESDコンソーシアム」で検索下さい。

「持続可能な社会をつくる」

それを担う人材の育成という

テーマに、森と水の源流館では

どうかかわるか?

「近畿ESDコンソーシアム」の一員として 森と水の源流館授業づくりセミナーが 始まっています。

ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進をめざし、奈良教育大学を核として、ユネスコスクールをはじめとする教育機関や教育・学習施設、また企業などが参加するプラットフォームに属しています。本年度、ESD 廣習として森と水の源流館との連携事業「授業づくりセミナー」が開催され、奈良県内の小学校の先生と和歌山県内の小学校の先生が、同じ「源流」に集まり、吉野川分水や水の恵みなどをテーマとした授業づくりを行っています。くわしくは、「近畿ESDコンソーシアム」で検索下さい。

森と水の源流館
水源地の村かわかみ

〒763-2663 奈良県吉野郡川上村1374-1(1次の平)
電話 0746-52-0888 FAX 0746-52-0388

http://www.genryuu.or.jp

公益財団法人 吉野川紀の川源流物産

第12回 やましん大和川水質改善応援定期預金

大和川定期預金

地球環境大賞を 獲得、数々の環境 各賞を受賞!!

「大和川定期預金」は大和川の水質改善を願い、水質の改善度合いによって金利を上乗せする定期預金です。

預入時の店頭表示金利に **さらに** 基準のBOD値よりも 水質が改善した場合

+0.06% (金利 上乗せ) **+0.06%** (金利 上乗せ)

最大+0.12% 金利上乗せ

一期間中ご成約のお客さまに **水切りネットを プレゼント!**

募集期間 平成29年7月28日(月)～平成29年8月29日(金)

対象に本預金入れの定期預金に、店頭表示金利から0.06%の金利を上乗せします。基準のBOD値よりも水質が改善した場合、さらに0.06%の金利を上乗せします。標準値から改善が認められなかった場合は、標準表示金利で運用させていただきます。

● 預入金額 10万円以上500万円以下(1円単位) (ご振込は「まね」)

● 運用期間 上乗せ金利については、当該預金入れ期間(1年)のみの適用となります。自動継続でお預け入れの場合、自動継続後の運用利率は毎月1日付の各企業価値指数金利となります。

● 運用利率 70以内(運用期間中であっても運用利率に上下変動、変動は「お申し込み」)

● 預入対象者 個人及び個人

● その他 本定期預金については、当金庫所定の申請書等をお申し込み下さい。

○詳しくは、窓口またはお電話までお問い合わせ下さい。○

Niss days, Together!
大和信用金庫

本店 桜井市桜井281-11 電話0120-03-2166
受付時間 平日 9:00～17:00

吉野川を美しく

川上でアクアソーシャルフェス

ごみ拾いながら環境学習

森と水の源流館と奈良新聞社の「アクアソーシャルフェス2017」の森を学び、体験しよう



川上村の自然に触れながらごみを拾い集める参加者。29日、同村迫

「森と水の源流館と奈良新聞社の「アクアソーシャルフェス2017」の森を学び、体験しよう」が29日、川上村迫の同館で開かれた。県内外の親子連れら約55人が参加し、水源地の保全や環境美化などについて学び、実践した。トヨタ自動車の小型ハイブリッド車「アクア」の車名にちなみ、海や川の美化を目的に全国展開している同社の環境保全活動の一環。

参加者は同館で、吉野川の源流域である同村周辺の環境を学習。同村水源課の職員が「下流にはいつもきれいな水を流す」といった「川上宣言」を説明し、家電リサイクル法施行後の家電ごみなどの違法投棄の現状を紹介した。

このあと参加者は、

清流の生き物に触れる

川上でアクアソーシャルフェス

親子で水生生物観察会

全国展開の環境保全活動「アクアソーシャルフェス」の一環で、川上村の環境教育施設「森と水の源流館」と奈良新聞社は5日、同日2回の講座に県内外から計約110人が参加した。吉野川支流「音無川」に入り、石をめぐったり、追い込んだりして魚や虫を採集。見つけた生き物の名前や特性を教わり、吉野川源流の美しさを実感した。



音無川で生き物を観察する参加者。5日、川上村西河

カシカガエルの成虫とオタマジャクシ、サワガニ、カワヨシノボリなど清流に住む生き物を多数確認。汚れた水の生き物は見つからなかった。

橿原市の小学1年、田村悠華君(7)はきれいな川で魚や虫がたぐさんがいた」とうれしそうだった。

アクアソーシャルフェスは、地球環境の未来を考えて開発された車、アクア(トヨタ自動車)の理念と連動した6年目の取り組み。県内では7月にも同村でごみ拾いハイキング

昆虫捕まえて観察



川上の源流館 県内外の親子ら参加

川上村迫の環境教育施設「森と水の源流館」は12日、同施設周辺で、吉野川紀の川しらべ隊昆虫観察会を行い、県内外の親子ら約40人が参加。身近な自然を再発見した。

昆虫生態写真家の伊

藤ふくおさんと和歌山大学大学院生吉山曉さん(保全生態学)を講師に、大滝ダム湖畔などを歩き、捕まえた虫の名前や特長などを教わった。

国道のトンネルにできたスズメバチの巣を

単眼鏡で観察したり、5種類のセミの声を聞き分けたりした。虫取り網を持った将来の虫博士たちはチョウやバッタ、トンボなどを次々と捕まえて大活躍した。

虫好きという奈良市の小学1年湊結希君(7)は「虫がたくさ

ん(10)は「川上村は自然が豊かで気持ちいい」と弟の研究を手伝っていた。

「森と水の源流館」では10月29日まで伊藤ふくおさんの写真展「川上村のぼった」を開催。8月15、16日は、がんばれ宿題「昆虫図鑑づくり」(300円、要予約)がある。問い合わせは同館、電話0746(52)0888。



講師の古山さん(左)からウスバキトンボの雌雄の見分け方を教わる親子ら。12日、川上村迫

水源地で自然感じて

吉野分水で親子ら源流トレッキング

大迫ダム見学や森を散策

大和平野の田畑をう
るおす吉野川分水を理
解する源流トレッキン
グツアーが17日、川上
村内であり、県内外の
親子連れ8人が水源地
の豊かな森を歩き、自
然や水などについて学

んだ。
吉野川分水を管理す
る大和平野土地改良区
(橿原市)が毎年実施。
参加者は同改良区的事
務所をバスで出発し、
吉野川をさかのぼって
川上村へ向かった。同

村内では吉野川分水の
水がめである大迫ダム
を見学し、村が保全す
る水源地の森を散策し
た。

ダムは規模、貯水量な
どを解説。水源地の森
は、同村の環境教育施
設「森と水の源流館」
の職員が案内した。
最後に、近くの河川
敷で清掃活動も実施。
参加者は、パーベキュ
ーなどの川遊びの客が
残したごみを拾い集め
ながら、源流域の環境
保全を願っていた。

同ダムでは、管理事
務所の職員が「緑豊か
な山があつてこそ降っ
た雨が山に保たれ、ゆ
っくりと流れ出てく
ると、森林の水涵
養(かんよつ)機能や

同ダムでは、管理事
務所の職員が「緑豊か
な山があつてこそ降っ
た雨が山に保たれ、ゆ
っくりと流れ出てく
ると、森林の水涵
養(かんよつ)機能や



水源地の森を散策して豊かな自然を観察する参加者
17日、川上村三之公(森と水の源流館提供)

川上村のバッタ紹介

写真展 コオロギやカマキリも

川上村の森と水の源流館で、同村で撮影されたバッタの写真パネルの企画展



企画展会場に並ぶバッタの写真パネル＝川上村

「川上村のはった Batata to バッタ展」が開かれている。10月29日まで。

生き物を通して川上村の自然を知ってもらおうと開催。上牧町在住の昆虫生態写真家、伊藤ふくおさんが撮影した昆虫写真の中から、村内で撮影されたバッタの写真パネルを中心に展示。エンマコオロギやカネタタキ、ツユムシやクツワムシ、カマキリ、オンブバッタなどの写真パネルが並んでいる。入館料は一般400円、小中学生200円。問い合わせは同館(☎0746・522・0888)。

奈良新聞 9.16

水生生物捕まえた

水のつながりプロジェクト 児童ら観察など

川上

吉野川分水の受益地と水源地のつながりを再認識する取り組み

「水のつながりプロジェクト」(大和平野土地改良区、川上村共催)が、川上村西河の音無川で開かれた。同村立川上小学校の4年生児童4人と、橿原市立今井小学校の4年生児童31人が参加。水生生物の観察を行った。

児童は、県水生生物研究会長の谷幸三さんの指導で、きれいな水辺に生息するサワガニやアブラハヤなどを採集した。

今井小の田中柚来穂君(9)は「生き物が好きなので楽しかった。ヘビトンボの幼虫を捕まえた」とこやかな表情で話した。

また同村の環境教育施設「森と水の源流館」や、大滝ダムの防災ステーションも見学。川の上流地域に関する知識を深めた。



友人と協力しながら水生生物を採集する児童＝川上村西河の音無川

「門杉」で吉野林業PR 川上村



川上村宮の平の環境学習施設「森と水の源流館」の入り口に、高さ約2.5mの「門杉」が飾り付けられた。

吉野林業のPRも兼ね、吉野杉を使った門杉を例年設けてきた。今年はスタッフ全員で製作。ナンテンやウラジロなどの縁起物の植物を組み合わせた。

29日～1月3日は休館。15日まで設置する。(福田純也)



○：川上村迫の「森と水の源流館」に、吉野杉の間伐材で作った正月飾り「門杉

(かどまき)」が設置された。丸田を斜めに切った美しい年輪が、迎春ムードを醸し出している。来年1月15日まで。

○：門杉は、前館長で林業や自然に精通する辻谷達雄さんが考

案。約10年前から製作してきたが、今回は高齡の辻谷さんの思いを引き継ぎ、初めて同館の職員ら7人が手作りした。

○：約2・5mの門杉にナンテン、ユズリハ、ウラジロの葉をあしらって華やかに仕上げた。同館の木村全邦企画調査班長は「杉のように地域が真っ直ぐ伸びていけば」と願った。

村の自然描いた絵画展示 川上村の森と水の源流館



階段をギャラリーに見立てた絵画展＝川上村

水瀑で知られる御船の滝や「水源地の森」と名付けられた天然林など、川上村の風景画を展示する作品展「川上村で出会った緑・水・人々」が、同村の森と水の源流館で開かれている。3月31日まで。

同館が主催するイベントなどでボランティアでサポートしている大阪府羽曳野市の中島裕子さんが描いた油絵や切り絵など計14点を展示。水源地の森や御船の滝、「紀伊半島自然100選」に選定されている蜻蛉の滝など、村の自然に魅せられた中島さんが実際に目にした風景を切り取っている。

開館時間は午前9時～午後5時。休館日は毎週水曜日。問い合わせは森と水の源流館（☎0746・520888）。

豊かな自然など題材 川上・「森と水の源流館」で 大阪の中島さん絵画展



印刷物で表現されたナガレヒキガエルを題材にした作品＝川上村迫の森と水の源流館

川上村の「森と水の源流館」で、村の豊かな自然や人々との交流を題材にした、中島裕子さん＝大阪府羽曳野

市＝の絵画8点を展示する「川上村で出会った緑・水・人々」絵画展が開かれている。31日まで。

中島さんは平成26年ごろ、吉野川の源流を訪れる同館のツアーに参加。以後、村の住民や美しい水の魅力にひ

かれてたびたび村を訪れている。

会場には、山奥の溪流に生息するナガレヒキガエルや冬の御船の滝といった豊かな自然や、地元住民との交流がうかがえる作品が並ぶ。

中島さんは「本当に水がおいしく、人がすてきな村。さまざまな魅力にひかれている」と話す。

午前9時から午後5時開館。水曜休館。入館料は大人400円、小中学生200円。問い合わせは同館、電話0746（52）0888。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp